会員の声

「同世代の友達からの飲酒と喫煙の誘いに対する高校生の断り方」について

原田（ハラダ）　浩二（コウジ）*

日本公衆衛生雑誌　2023; 70(3): 206.　doi:10.11236/jph.22-095

本誌第69巻第3号に掲載された岩田の原著（以下，岩田論文と表記）[1]は，高校生における飲酒と喫煙の誘いに対する断り方を調査したものである。その結果は現在の喫煙と関連する行動は「弁明・簡潔な断り方」であった。この結果については有意義であると考える。

しかし本短信では岩田論文における層別解析に意見したい。この研究で含まれていた高校の種別として，普通科と工業科が含まれていたということで，それぞれの種別ごとに飲酒・喫煙割合を記載されている（岩田論文の表1-2）。その結果では工業科で，割合が高いとされていた。岩田論文の目的としての「日本の高校生を対象に，飲酒と喫煙の誘いに対する断り方の特徴，および現在飲酒，現在喫煙との関連について明らかにすることを目的」とすることには賛同するが，普通科と工業科を取り立てて分類して記述したことについて必要性があるか疑義がある。なぜなら岩田論文の目的として，高校の種別による差異や効果的な取り組みを開発することは含まれてなく，実際にこの校種別の違いは結果で僅かにしか触れてなく，考察も全く議論されてない。これは岩田論文の目的で必要な記載であったとは思えない。

調査研究で，所属層別に分類することは一般的ではあるが，「研究で生じる集団の被害」について配慮が必要であることは，一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）eラーニングプログラム[2]の主要単元として挙げられている[3]。その一例は米国アラスカ州での先住民族イヌピアットにアルコール依存症が多いという主旨の論文発表であった[4]。依存症の増加にかかるイヌピアットたちの社会的，文化的背景に配慮なく，結果がマスメディアにリリースされ，イヌピアットの「アルコール依存症」社会が「絶滅に直面している」などと伝えられた。結果として先住民へのステレオタイプを増強し，イヌピアットの社会に強い研究者への不信を長期に植え付けた。

公衆衛生研究で社会的要因は重要ではあるが，十分な文脈の説明がないなかで所属を分類して提示することの意味について留意が必要であると考える。論文投稿の過程で査読者が属性別の解析を要求することはままあるが，過剰な層別解析の要求は不用意な結果を生む可能性もある。

繰り返しになるが，公衆衛生において社会的な階層を考慮することは重要であり，一方でその解釈について十分配慮することが求められると考える。編集過程でこの点についても考慮されることを望みたい。

開示すべきCOI状態はない。

（受付　2022. 9.22
採用　2022.10.27
J-STAGE早期公開　2023. 2.10）

文　献

1）岩田英樹．同世代の友達からの飲酒と喫煙の誘いに対する高校生の断り方．日本公衆衛生雑誌 2022; 69: 191-203. doi: 10.11236/jph.21-121.
2）浅島　誠，市川家國，池田駿介，福嶋義光．一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）の発足とその活動．学術の動向．2018; 23: 30-35. doi: 10.5363/tits.23.5_30
3）一般財団法人公正研究推進協会．APRIN eラーニングプログラム（eAPRIN）教材 主要単元内容2022.9.30版．https://www.aprin.or.jp/form0/e-learning_maincontents.pdf（2022年10月17日アクセス可能）．
4）Foulks EF. Misalliances in the Barrow Alcohol Study. Am Indian Alsk Nativ Ment Health Res (1987). 1989; 2: 7-17. doi: 10.5820/aian.0203.1989.7.

* 京都大学医学研究科
責任著者連絡先：〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学研究科環境衛生学　原田浩二

©2023 Japanese Society of Public Health